

献辞

乙部哲郎先生が2010年3月31日をもって神戸学院大学をご定年で退職されました。1972年4月に法学部講師として着任されて以来、神戸学院大学法学部発足初期の困難な時代から今日に至るまで、終始、神戸学院大学の発展に力を尽くされてきました。なによりもまず、そのことに対して感謝の気持ちで一杯です。

私が乙部先生にはじめてお会いしたのは、阪神・淡路大震災直後の1995年4月、私が神戸学院大学法学部に着任した時でした。乙部先生は、当時、法学部長として震災後の大学運営の重責を担われておりました。私は、赴任早々、入試業務に関する委員を拝命していた関係で、学部長の乙部先生とは会議をはじめしばしば一緒する機会がありました。神戸学院大学の新参者で慣わしを知らない私は、いろんなところで私自身の経験に基づいて事を進めていたようでしたが、そんな時でも、乙部先生は、いつも暖かく私を見守って下さいました。

法科大学院ができて、今度は、法科大学院で一緒でした。私は、2009年4月から研究科長となりましたが、次々と重要案件が噴出し、それを上手に捌くことがままならなくて四苦八苦の状態でしたが、そんなとき、乙部先生は、以前と変わらず、私を暖かく励まして下さいました。乙部先生に対し、私は、適切な感謝の言葉も見当たらないほどです。

このたび、乙部先生がご退職される時期にたまたま私が研究科長であるという偶然に恵まれて、献辞を書かせていただくことをまことにありがたく感じております。乙部先生には、言葉に表せないほどの感謝の気持ちで一杯ですが、これまでそのことをお伝えするチャンスがなかったものですから。

乙部先生におかれましては、いつまでも末永くご健勝であられ、私も未熟な後進をご指導いただきますとともに、神戸学院大学の発展を見

神戸学院法学 第40巻第3・4号

守ってくださいますようお願い申し上げます。

2011年3月

大学院実務法学研究科長 増 成 牧